

寄稿

韓国の最新医療事情

日本医療経営学会理事長／元ニューヨーク医科大学臨床外科教授 廣瀬輝夫

はじめに

韓国の医療事情は、最近10年間に国民皆保険制度も整備され、診断治療面でも目覚ましい進歩が見られる。新興国ではポーランドとともに、世界保健機関(WHO)の世界各国の医療システム度で29位および35位を占めている。

両国ともに第二次大戦時の1945年に日独の支配下から解放されたが、50年代に北朝鮮およびソ連との戦乱により焦土と化した。韓国では53年に終結した朝鮮戦争後に民主国家として再建された。両国とも国家機能は80年後半になり回復を始めたにもかかわらず、本格的な近代医療と医療保険制度が急速に発展したのは90年代半ばからであった。

韓国は、1997年に金大中大統領の失政により経済破綻に陥り、IMFの管理下に置かれた。筆者はその翌年、韓国病院会の招待でDRG包括支払いについての講演を行った折に、ソウル国立大学およびKorea(高麗)大学の付属病院を見学視察しているが、今回は保健福祉省、私立のSamsung(三星)メディカルセンター、韓医大学の視察報告をする。

韓国の保険制度

韓国はポーランドとともに最近10年間は国民総生産の伸び率は7%前後であり、日米が3%前後にとどまっているのに比べれば経済発展は著しい。両国ともに国民皆保険制度を確立することが可能となり、自己負担額も2割以内にとどめ、政府負担は保険料の60%である。

韓国の保険制度は1977年に導入された。医療保険は85年になって開始され、国民の30%が加入したが、現在では96.4%が国民保険や企業保険に加入している。医療費の助成を受ける人は0.4%にすぎず、日本の1%よりも低いという。

両国ともに国民医療費の国民総生産に対する割合は現在6%であるが、1人当たりの医療費も韓国は1,000米ドル、ポーランドは650米ドルと新興国中で

は最高で、国民医療満足度は日米よりはるかに高い。

国民1人当たりの収入は韓国が2万4,000米ドル、ポーランドはその半分の1万1,500米ドルで、米国の4万3,500米ドル、日本の3万2,000米ドルに比べると低い。貧困率はポーランドは17%、韓国は12%前後である。失業率はポーランドは15%と高いが、韓国は4%で日米に比較して貧富の差ははるかに少ない。

しかし、韓国、ポーランドともに一般国民の間では固有の民間医療が盛んで、政府および公私機関も援助を行っており、国民皆保険の保険制度の確立とともに国民の健康維持におおいに貢献している。平均寿命は韓国は77.23歳、ポーランドは75.07歳で米国の77.85歳に近く、また乳児死亡率も韓国は6.05、ポーランドは7.27で米国の6.03に匹敵している。

日本の平均寿命は82歳、乳児死亡率は3.6で世界第1位で、医療システム度も第1位であり、米国の15位よりはるかに勝っている。日本の国民皆保険制度は世界で最も優れていることは言うまでもない(表1)。

韓国の私立大学病院

Sungkyunkwan(成均館)医科大学付属病院のSamsung(三星)メディカ



前列中央がSungkyunkwan医科大学付属病院・SamsungメディカルセンターのPyo-Won Park胸部外科教授、その右が筆者

ルセンターは12年前にソウル市内に創設され、現在1,200床の近代的大病院である。来年には2,000床に増床するが、従業医師は800人、看護師は1,500人、全従業員4,000人であり、外来患者は1日3,500人で年間120万人が最新設備による医療を受けている。

同センターは、がんセンター、脳卒中センター、アレルギーセンター、心臓血管病センター、消化器センター、長期ケアセンターおよび科目別の特設クリニックを含めて40の部門に分かれているが、心臓病センターには医師7人が働いている。センター長のPyo-Won Park胸部外科教授が他の教授陣とともに院内を案内してくれたが(写真)、最新の設備を備え心臓血管病に対する最新の医療知識を持ち、先端医療の急性心筋梗塞に対する抗血栓治療も施行していた。開心術の死亡率は2%以下であった。

現在、韓国では30の心臓病センターがあり、年間約5,000例の冠動脈バイパス手術(CABG)が施行されている。人口との割合では日本よりも多く、経皮的冠動脈形成術(PTCA)におけるステント挿入例は約半数で、日本と同率とのことである。

胸部および消化器病手術も内視鏡手術が盛んで、他の先進国のレベルに匹敵していた。

韓国の近代西洋医療の現状

韓国の病院数は1,500で病床数は30万床と、人口の割合からはほぼ米国と同様である。日本の9,000病院、125万床は経済協力開発機構(OECD)の先進国中最も多く、その削減が必要である。医師数は9万2,000人であるが、そのほかに韓医が1万2,000人おり診療に従事している。看護師は24万人で日本の90万人と比較して手薄であり、歯科医は2万3,000人で日本の8万人、薬剤師は5万3,000人で日本の16万人に比べ少ない。

しかし、入院日数は10日で、日本の22.2日と比較して半分である。また、年間の外来受診回数は国民1人当たり9.5回で、日本の16.0回の半分にすぎないが、米国の5.8回と比較すれば2倍近い。

韓国の教育は6・3・3制で、大学は4年制であるが、医科大学は日本と同様6年制で、インターンおよびレジデント制度を実施している。医学校数は30校、年間卒業生は2,400人、日本は80校、8,000人であるので医師教育は充実している。女性医師の数は日本の16%と比較して現在は少ないが、医学校入学者は35%となり日本と同様となっている。

また、高齢化率はいまだに9.6%で、世界最高の日本の18%の半分であるため、長期ケア施設に関しては民間の高級な老健施設のみで、現在、その建設が計画中である。

出生率は9.93で日本の9.37と同様に低いが、ポーランドと同様に人口はほとんど増加が見られない。そのため、人口の高齢化が急速に進むと予想されることから、来年から介護士の養成を始めると保健福祉省の技官が説明してくれた。保健福祉省はソウル市では拡張が不可能となったので、郊外の広大な敷地に11の省庁とともに数年前に庁舎が新設された。広大な駐車場を備え、それらを訪問する際には厳重な審査のうえ許可証を発行していた。

韓医および付属病院

韓医大学は現在11校である。そのうち3校は韓医学のみの専門校であるが、8校は西洋医学も統合した医

次ページへ続く

〈表1〉韓国・ポーランド・日本・米国の医療比較

国名	韓国	ポーランド	日本	米国
独立年	1948	1918	—	1776
人口(人)	4,905万	3,851万	1億2,799万	2億9,300万
面積(km)	9.84万	31万	37万	962万
国民総生産(米ドル)	7,930億	5,545億	4.5兆	13.98兆
年間生産増加率(%)	5	8.7	2	3.4
1人当たりの収入(米ドル)	2万4,000	1万1,500	3万2,000	4万3,500
貧困率(%)	12	17	12	12
失業率(%)	3.3	14.9	4.4	5.0
文盲率(%)	2.1	0.2	0.01	2.0
出生率/特殊出生率(%)	9.93/1.33	9.94/1.34	9.37/1.24	14.14/2.09
死亡率(%)	5.99	9.94	4.0	8.26
乳児死亡率(%)	6.05	7.27	3.6	6.03
平均寿命(歳)	77.23	75.07	82	77.85
高齢化率(%)	9.6	13.3	18	12.5
人口増加率(%)	0.394	-0.05	-1	0.91
HIV罹患率(%)	0.09	0.1	0.001	0.6
国民医療費(米ドル)	480億	360億	3,900億	1.5兆
国民医療費/国民総生産(%)	6.0	6.2	8.8	14.8
1人当たりの医療費(米ドル)	1,000	654	3,400	5,200
病院数	1,500	850	9,000	6,450
公的病院数の占める割合(%)	58	90	40	30
病床数(床)	30万	12万	125万	90万
医学校数	30	6	80	125
医学校年間卒業生(人)	2,400	800	8,000	1万7,000
医師数/補助医師数(人)	9.2万人	8万(0.3万)	31万(1万)	86万(10万)
女性医師の割合(%)	10	50	16	26
看護師数(人)	24万	15万	90万	420万
歯科医師数(人)	2万3,000	2万	8万	18万
薬剤師数(人)	5万3,000	4万	16万	35万
入院日数(日)	10日	14日	22.2日	5.8日
年間外来受診回数(回)	9.5回	6.4回	16.0回	5.8回
医療システム度(WHO)	85.7(35位)	91.3(29位)	93.4(1位)	91.3(15位)

(廣瀬輝夫作成)

〈表2〉四象体質説

体質	太陽人	少陽人	太陰人	少陰人
気運	高上	高上	沈下	沈下
性質	男性的	男性的	女性的	女性的
	短気	神経質	安逸	自信なし
	粗野	負けず嫌い	陰鬱	嫉妬深い
体調	多尿	多汗	汗かき	食欲旺盛
	口渇	正常便通	便秘	下痢気味
疾病	胃痛	便秘	循環不全	発熱
	垂涎	頭痛	代謝不全	消化不良
	尿閉	浮腫	肥満	冷え性
良い食物	そば/柿/貝	麦/なす/鯛	豆/牛乳/胡桃	鶏肉/生姜
	葡萄/鮎/蓴菜	牡蠣/鮑/豚肉	牛乳/栗/大根	葱/桃/トマト
	蟹/海鼠/梅桃	麦酒/苺/バナナ	銀杏/小麦/山芋	大蒜/栗
悪い食物	脂物/香辛料	葱/大蒜/胡椒	鶏肉/生姜/蜂蜜	瓜/牛乳/豚
社交	積極的	活動的	無口	計画的
	独断的	正義感	信頼感	気くばり
	理想的	でしゃばり	努力家	内向的

(廣瀬輝夫作成)

前ページから続く

療の教育を施行している。大学卒業生は年間800人以上おり、1万2,000人の韓医が100の病院と7,000の韓医院で診療を行っている。

慶熙大学校韓医科大学はソウル市の中心部にあり、1971年に内科、小児科、鍼灸科の付属病院が100床で開院し、72年には鍼麻酔による虫垂切除術に成功したので有名である。88年には新館が完成し、420床の大病院となっている。年間40万人の外来患者と12万人の入院患者を治療している。専門医師は約50人、研修医約90人、看護師約70人、その他の医療従業者400人が診療に従事している。

韓医科大学学長のYoung-Suk Kim (金永錫)博士と副学長のChang-Hyun Jeong(丁彰弦)教授が大学内を案内してくれた後に3階の図書室を訪れた

が、授業時間外というのに学生で満室なのには感心した。また、4階の韓医学博物館では古書および中世期からの韓医の使用した医療器具が所狭しと陳列されていた。14世紀に中国医学から韓医学を創設した李濟馬先生の肖像画と、韓医学の基礎である四象体質についての古書を特別に拝見し、その解説パンフレットをいただいた。

四象体質は中医学とは異なりインドのアーユルヴェーダの三体質説に近いが、実質的であり理にかなっていると思われるので一部(表2)を紹介する。医食同源と言われるように、食物が疾病の予防と治療の面で薬物に劣らない役割を持っていることも述べられ、内臓の特性や体質の違いを考慮し薬物はもちろん食物もそれぞれの体質に適合したものを摂取することを勧めている。

日本の漢方は14世紀に韓医により伝来されたものであるとの証拠も示されたが、漢方薬の大半は韓国から伝来したものであることを副学長が古書から学び、数冊の事典を作成されていた。韓国の生薬で最も尊重されているのは朝鮮人参、にんにく、生姜などである。鍼も韓国の古来のものは太めであるが、日本の鍼は最小に改良され挿入の方法も技術上優れている。灸は日本と同様に現在では余り普及していないようである。

いずれにせよ、日本の漢方は明治時代に近代西洋医療の導入により軽視されてきたが、韓国では韓医学は現在でも尊重され統合医療として普及し、日常の診療に使用されている。今後、日本の統合医療の確立には東洋で最も洗練されている漢方を取り入れる必要があると思われる。

むすび

韓国の医療制度も近代西洋医療も、筆者が10年前に訪問したときより急速な進歩が見られる。当時、病院包括支払いとして韓国人統計学者が米国のエール大学で作成したDRG支払いの導入を虫垂切除術、胆嚢切除術、正常分娩、帝王切開、単純骨折治療など10種類に制限するように勧告していた。現在でも包括支払いはそのまま10種類にとどめており、他はすべて出来高払いで先端医療の診療には適用していないのは、高額な先端医療の導入を阻害しない点では賢明な策である。

韓国の近代西洋医療は、いずれの先進国にも劣らないうえ、古来からの韓医学を活用している点も日本より優れていると考える。